

新出の松江城天守古写真－改修された天狗の間－

はじめに－明治27年（1894）以前の松江城天守が写る古写真

- ・『松江市史』別編1「松江城」によると、明治27年までの松江城天守の古写真は4枚が残るのみ

新たに確認した松江城天守古写真（平成31年〔2019〕3月、新たに確認⇒5枚目となる）

酷似する松江城天守古写真の比較

⇒新出の古写真：5階（天狗の間）が改修されている、入母屋破風の3階部分の東側屋根が崩落している

『山陰新聞』（明治15年5月発刊）に見る明治27年までの松江城天守の保存・修理 〔松江城天守の修理に関する記事〕

①明治21年（1888）3月28日付「天守閣の修繕」

②明治21年（1888）5月31日付「松江城山」

→5階から修繕し、ガラス窓にする予定で、5月29日から着手されたとある

③明治21年（1888）6月24日付「天守閣の土上げ」

④明治25年（1892）3月15日付「千鳥城の修繕」

→5階だけ修繕して、ほかは追々修繕をする筈で、4月から一部分の修繕に着手するとある

⑤明治25年（1892）9月18日付「天守閣保存仕様の希望」

→天守閣の上層の外部だけ既に修繕が加えられて、ガラス窓に覆われたとある

〔松江城天守5階の修理について〕

⇒明治25年（1892）9月18日の時点では既に天守上層（5階）がガラス窓に改修されている

⇒新聞記事から、明治21年5月29日から明治25年3月15日の間にガラス窓へ改修されたと考えられる

〔既に知られている松江城天守古写真の撮影時期について〕

⇒5階がガラス窓となっていない →ガラス窓へ改修された明治25年3月15日以前に撮影されたと考えられる

〔新出の松江城天守古写真の撮影時期について〕

⇒3階東側屋根の崩落を明治25年8月6日付の「天守閣下層東南隅の屋根五六間許り崩壊せし」とすれば

新出の松江城古写真はそれ以降であると考えられる

⇒新聞記事によると、明治25年8月6日以降で確認できる修繕は明治27年（1894）の大修繕である

⇒上記から、新出の松江城天守古写真は明治27年6月1日から同年9月30日に撮影されたと推定する

おわりに－新出の松江城天守古写真の評価と課題

●現存する明治27年以前の松江城天守の写真として5枚目となる貴重な資料

●既知の酷似する写真との比較により、松江城天守の変遷を探ることができる

●明治期に5階（天狗の間）から修理したことを明らかにした ⇒新聞記事との整合も図れた

●明治期の修理の様子を写した写真 ⇒明治27年の大修繕であれば記録がほとんどない同修繕を写した貴重な資料

〔課題〕

▶明治25年8月6日付山陰新聞「天守閣崩壊」記事にある崩壊場所の評価

▶修理の時期の評価（明治の大修繕以外の修繕の可能性）

〔参考文献〕

木下誠2020「新たに確認した松江城天守古写真－ガラス窓に改修された天狗の間－」『松江歴史館研究紀要』第8号

『山陰新聞』から確認できる明治27年までの松江城天守の保存・修理に関する主な記事年表

年号 (西暦)	新聞発行日と 記事見出し	記事原文	注目点
明治19年 (1886)	4月24日付 「亀田城の保存」	松江城天守閣の追年破壊し居て周囲は草茫々恰かも狐狸の巢窟となれるのを夫々修繕を加へて公園と為し	●天守は年々荒廃しており、修繕し公園にする策があるという。
明治21年 (1888)	3月26日付 「初午の景況」	一昨日は初午とて稲荷まつりの当日なりし(中略)当日より天守閣の縦覧を許され天守の絶頂には誰の心付にや三個の双眼鏡を備へありしものから郷中の人々は始めて天守閣へ登りたるものもあるべく(中略)午前十時頃より午後五時迄に於て登閣なしたる男女は千人以上ありて天守閣保存費中への寄附金として二銭以上の登閣料を徴せし惣額は金十三円ながしと云ふ(後略)	●天守への縦覧が許されて一般人の登閣が始まる。 ●天守保存の寄附金として登閣料の徴収も始まる。
	※この後も天守閣縦覧に関する記事がいくつか見られる		
	3月28日付 「天守閣の修繕」	千鳥城山の見る形もなきばかりに頽廢したることは我人の目撃する処なるが先づ其雨漏を繕ひ置かんと議ありて昨日より其修繕に着手せり	●天守の雨漏りを防ぐため修繕が着手される。
	5月31日付 「松江城山」	(前略)天守閣の旧観を保存せんと天守閣修繕の企てあり既に差向き雨露を凌がながために仮修繕に取掛りたる事なるが今度弥よ本修繕に着手することとなり先づ閣中頂上の間より修繕し四方の物見窓をば悉皆硝子窓に仕組む都合にて其職工人も定まり一兩日前より着手したりと其費用は彼の登閣料として天守閣の縦覧人より徴収したるものを以て支弁すべきの予算なりとぞ(後略)	●頂上の間(5階)から修繕し周囲をすべてガラス窓にする予定で、一昨日から着手される。 ●天守縦覧人から徴収する登閣料を修繕費の予算とする。
	6月24日付 「天守閣の土上げ」	一昨日は当松江の士族達が亡慮百三十名辻も城内に集りて兼て修繕中の天守閣の屋上へ土上を為したる由にて籠手田知事、大野郡長も臨場され郡書記永井卓一氏の董督にて士族達は必至に土方を勤めたりといふ尚ほ来る廿五日には第二回の土上を為す筈なりと	●修繕中の天守屋上へ士族達が土上げをする。
10月28日付 「赤十字社紀年祭典」	(前略)又た天主閣天狗の間には福島正則蜻蜒形の具足、妙珍作の具足、旧松江藩主の具足、隠岐国音無松の松皮等を飾付け二層閣には繙帯人形数個を飾りありて当日の登閣人員は五百九十三名に及び之が寄附金(天主閣修繕の爲め)は則ち五円九拾三銭なりしとのこと(後略)	●天守天狗の間(5階)で具足3領などを展示して、登閣者は593名、天守修繕の寄附金が5円93銭になる。	
明治22年 (1889)	11月6日付 「城山天守閣の閉鎖」	千鳥城天守閣の縦覧はいよいよ本月限りにて差止むる事となるが近日の登閣者は平均二十人位にて去る三日天長節当日には百余人に及びたりとの事又去十月中の登閣人員は八百九十三人にして此の登閣料八円九十三銭なりき	●一般人への天守縦覧が当月で終了することとなる。
明治25年 (1892)	3月15日付 「千鳥城の修繕」	亀田山千鳥城は其天狗の間丈けの修繕をなし余は追々修繕をなす筈なりし 来る四月の度より一部分の修繕に着手するといふ	●天狗の間(5階)だけを修繕して、余りは追々修繕するはずで、4月から一部の修繕に着手するという。
	8月6日付 「天守閣崩壊」	(前略)過日の暴風雨の爲め城山天守閣下層東南隅の屋根五六間許り崩壊せしを発見せり	●天守下層東南隅の屋根が5~6間ほど崩壊したのを発見する。
	※この後、天守旧観保存の修繕に向けた動きに関する記事がいくつか見られる		
	9月18日付 「天守閣保存仕様の希望」	(前略)天守閣の如きも其上層の外部だけ既に修繕を加ひしものは例の硝子窓に覆はれたり恰も袴着の人がジャケットかフロックコートにても被るが如し(後略)	●天守上層の外部だけ既に修繕され、ガラス窓に覆われている。
明治27年 (1894)	※5月17日以降、大修繕に関する記事がいくつか見られる		
	12月17日付 「天主閣修繕竣工式」	城山天主閣修繕落成式は予記の如く昨日同閣大広間に於て執行せられたる(中略)工事委員三島佐次右衛門氏は報告すらく抑も本工事は明治二十七年六月十日を以て起工せしも翌年雨露の浸蝕に任せし為破損実に甚だしく、其の一二を挙げれば四方破風屋根地取替百十坪、土居二百二十坪、座板張替百三十六坪、柱建替二十一本、土壁塗替三百二十坪、瓦の補填一万三千五百枚、漆喰百三十石、此他桁梁垂木鉄具等の取替枚挙に暇あらず而して同年十一月十八日完く竣工す(後略)	